

消費者金融利用者に関する実態調査 (結果概要)

2006年

【調査主体】

統括：堂下 浩（東京情報大学・助教授）

統計解析：内田 治（東京情報大学・助教授）

心理分析：照井 芳裕（C&Yカウンセリングスクエア代表）

【調査機関】

マイボイスコム株式会社（webアンケート調査）

株式会社コミュニケーション科学研究所（インタビュー調査）

調査の概要

調査期間:平成18年5月15日～24日の9日間

有効回答数: **142,264人**(このうち、有職者101,420人)

現在何らかの借入のある人 **73,403人**

消費者金融の現在利用者 **5,299人**

消費者金融の過去利用経験者 **7,802人**

調査方法:インターネットアンケート(142,264人)及びインタビュー(20人:現在進行中)

主な内容:消費者の経済状況、消費者の家族構成、借り入れに至るまでの経緯、
消費者の心理/行動の特性、その他

調査結果に多く見られる傾向

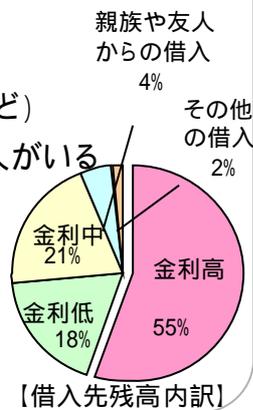
完済者

- ・困難に直面しても逃げずに立ち向かう性格である
- ・慎重にものごとを考える
- ・欲求に折り合いをつけながら行動できる

債務整理者

- ・金融機関からの借入がない
- ・借金癖が治っておらず、知人親戚からの借金がある
- ・欲求を抑える力は依然、劣ったまま

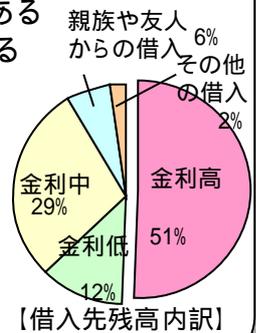
- ・安定した給与所得者である
- ・持ち家あり・家族あり
- ・借金に明確な目的がある(冠婚葬祭費への出費など)
- ・悩みごとを相談できる友人がいる
- ・返済を計画的に行おうとする思考が強い
- ・必要以上に借入を行わない



健全な利用者

金利 高…消費金融、クレジット会社からの借入 金利 低…住宅ローン、勤め先からの借入
金利 中…目的ローン、不動産担保ローン、銀行カードローン、共同出資会社のローンなど

- ・厳しい雇用環境にある
- ・現在、生活苦である
- ・借金で借金を返す悪循環に陥っている
- ・相談相手やセーブする人がいない
- ・家族や友人からの借金がある
- ・ヤミ金と接触した経験がある
- ・個人的快樂を優先しがち
- ・非社会的である
- ・返済について相談できる窓口を求めている
- ・「返済余力ありグループ」と比べて高い金利の利用が多いとはいえない。



返済困難者

悪循環の原因は心理的要素が大きい

調査結果からの示唆

残高や金利の規制では「過重債務」問題の解決につながらない

一定の借入件数以上の利用者に対して、**債務整理者になる可能性を評価することが必要**

生活苦のため借入れ、その後破綻に至る利用者には何らかの救済策(例えば、ハローワークや民間職業紹介所との連携)が必要

結論: **債務整理予備軍を早期発見し、カウンセリングと返済条件の見直しの機会を提供すべき**